



日本遺産・酒田

平成 29 年 4 月認定

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

— 北前船寄港地・船主集落 —

北海道函館市、北海道松前町、青森県鱒ヶ沢町、青森県深浦町、秋田県秋田市、山形県酒田市、新潟県新潟市、新潟県長岡市、石川県加賀市、福井県敦賀市、福井県南越前町

日本海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。





湊町の歴史

本間家旧本邸
北前船で財をなした豪商本間家の邸宅。

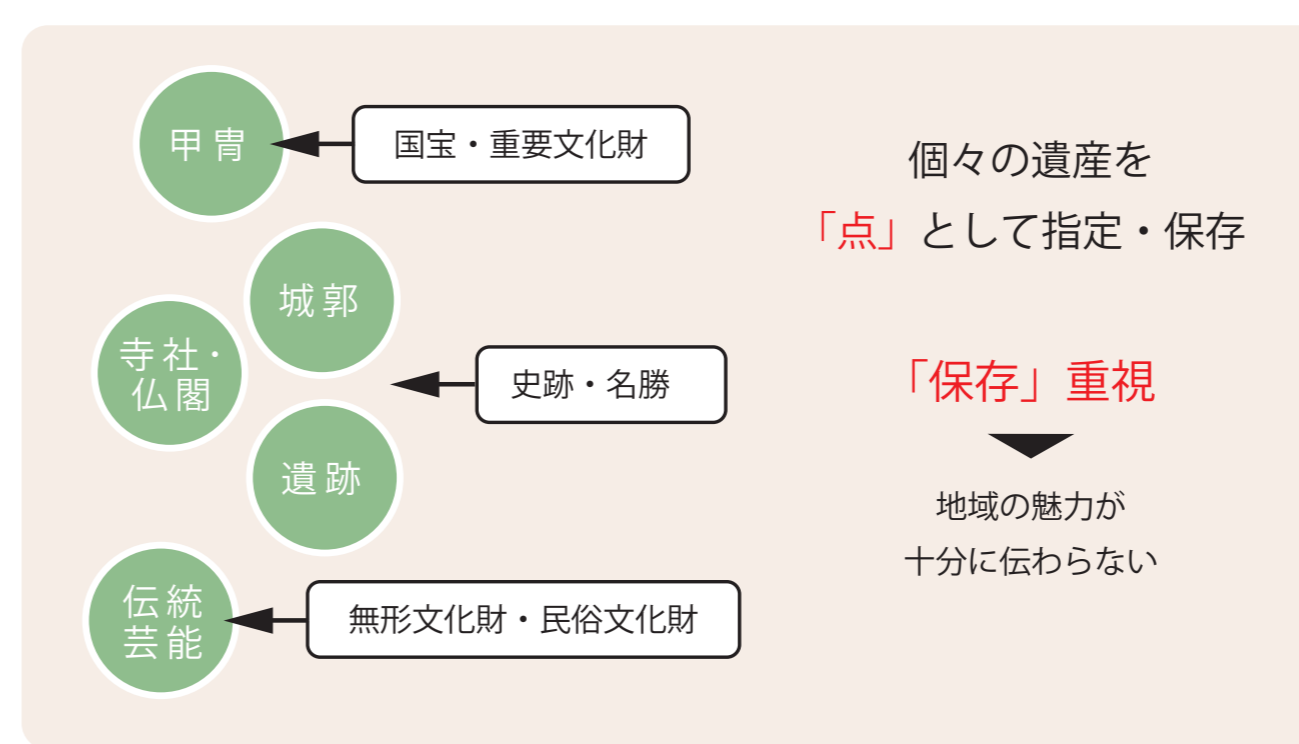
日本遺産 (Japan Heritage) とは？

日本遺産 (Japan Heritage) は、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

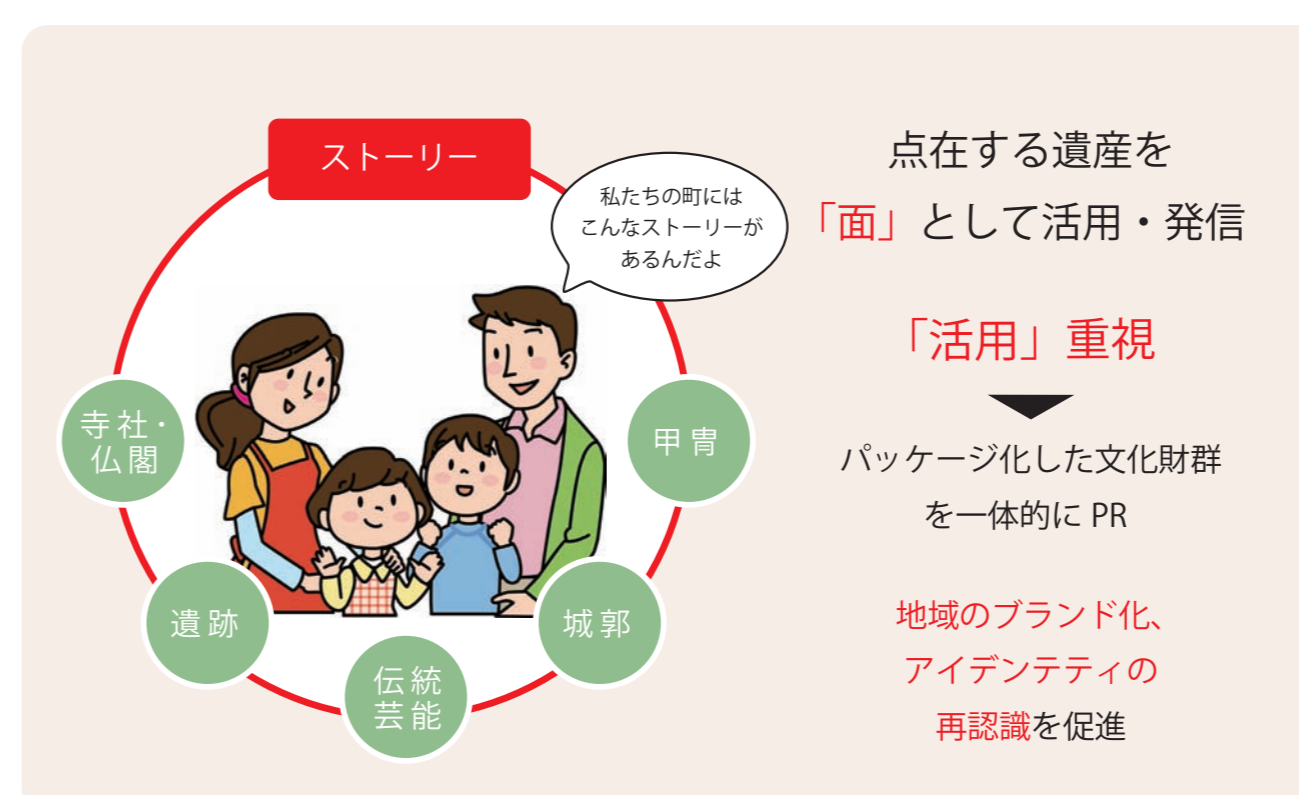
平成 27 年、平成 28 年に日本遺産に指定されストーリーは 37 地域。2020 年東京オリンピック・パラリンピックまでに 100 カ所が認定される予定です。日本遺産を構成する酒田市の文化財群は次の通りです。

- 日和山公園 (市名勝)
- 旧燈屋 (国史跡)
- 本間家本邸 (県有形)
- 山王くらぶ (国登録有形)
- 相馬屋主屋 (国登録有形)
- 本間氏別邸庭園 (鶴舞園) (国名勝)
- 塞道絵幕 (大壽和里大祭事) - 酒井侯御安堵祝宴 - (市有形民俗)
- 酒田山王祭礼用亀笠鉾 (市有形民俗)
- 酒田袖之浦・小屋之浜之図 (市有形)
- 雛めぐり (未指定)

従来の文化財行政



日本遺産



北前船の時代



河村 瑞賢（1618年—1699年）
西廻り航路、東廻り航路を開いた江戸時代初期の政商。
写真は、酒田市日和山公園の銅像。

北前船と西廻り航路

江戸時代、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買い積み方式により利益をあげたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海沿岸を中心に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。

西廻り航路とは、江戸時代にひらかれた日本海岸の諸港と大阪を、下関・瀬戸内海ルートでむすぶ航路で、寛文12年（1672年）、江戸の商人・河村瑞賢が幕命を受けて行った海運の刷新によって確立しました。江戸後期には蝦夷地・東北・北陸の物資（米・海産物）を上方へ輸送する幹線航路となりました。一方、東廻り航路は奥羽地方の諸港から津軽海峡を経て太平洋岸沿いに南下し、江戸に至る幹線航路です。寛文11年（1671年）に河村瑞賢が阿武隈川河口の荒浜から江戸直行の航路を開いて以後、次第に発展しました。



鳥海山を仰ぐ港

空から見た酒田港

海から屹立する標高 2,236m 鳥海山は、日本海航路の重要なランドマークとなった。

山を仰ぐ港と山に抱かれる港

北前船が寄港する港にはどんな特徴があったのでしょうか。立地から見ると大きく二つに分けられます。

一つは、山を借景として大きな川の河口に位置する「山を仰ぐ」港です。日本海から仰ぐ名山は、古くから航海の目印となり、その近くに港を築いています。これらの港は江戸時代には、上方への年貢米の積出港となり、領内の穀倉地帯を流れる大河の河口に米倉、番所などが整備されました。名山を仰ぎ大河に抱かれる港が、日本海を経由して北日本と上方を結ぶ西廻り航路の基盤となり、各地へとつながりました。そこでは、夕日に輝く雄大な自然と港が一体化する名画のような景色や、山から見下ろす美しいパノラマに出会うことができます。

もう一つは、山と海の間はずかな平坦地に位置する「山に抱かれる」港です。一度の航海で巨万の富が得られる北前船が頻りに行き交うようになると、風待ち港も含め多くの寄港地が整備されました。砂丘の多い日本海沿岸では、山と海に挟まれたわずかな平坦地を利用し、コンパクトな港や集落を築いています。古い建物や荷揚場、船止めの杭など、北前船によりもたらされた、文化遺産が集約された町並みを歩いて回ることができます。



日如山眺望



商人たちの築いた町

旧燈屋

燈屋は、井原西鶴の『日本永代蔵』に当時の繁盛ぶりが記された廻船問屋。当主の燈屋惣左衛門は代々酒田三十六人衆の一人だった。

一獲千金・のこぎり商いが育んだ港町

北前船での商いはなぜ、大きな利益が得られたのでしょうか。それは、当時の国内の地域間価格差によるためです。例えば、北海道で大量に獲れる鮭(にしん)は、西日本では綿を栽培するための肥料として高く売れました。一方、西日本と北日本で衣類の生産技術の差から、西日本の古着が北日本では高価な商品となりました。上方に鮭を売って空になった船に古着を積み込み、北日本で売る、押して引いて木を切るのこぎりのように行きも帰りも商売をする北前船は「のこぎり商い」とも呼ばれました。

一航海千両、と言われた北前船が生み出す富は莫大であり、藩と連動して年貢の積み出しを行う大きな港のみならず、人口の少ないコンパクトな港や集落にも経済的繁栄をもたらしました。



往時を再現した旧燈屋の台所



北前船で発展した港町

相馬屋主屋（国登録文化財 建造物）

江戸時代より料亭として賑いをみせた「相馬屋」。現在残る木造の主屋は、明治 27 年の庄内大震災の大火で焼失後に再建されたもの。

港町の驚きと発見

北前船により発展した港には、廻船問屋や商家、蔵など、大規模な建物が残されています。町は、小路に沿って家が軒を連ね、小路はそのほとんどが海に向かう特徴的な町割りを見せています。船乗りにならぎと解放を与えた花街や、日和を見た小高い山、航海の安全を祈った神社仏閣など、北前船がもたらした機能が整えられています。そこには、封建下にあって近隣の稲作を中心とした農村や、その基盤上にある城下には見られない、海上輸送という手段を手にした商人たちの築いた町があります。想像もできないほど高い塀や、敷地内に多くの土蔵を持つ豪壮な屋敷を見て、「こんな所になぜ、こんな大きなお屋敷が」と言った、驚きや発見に出会うことができます。



ケヤキ並木と山居倉庫



北前船で発展した港町

本間氏別邸庭園（鶴舞園）

北前船で運んできた各地の銘石で造られた池泉回遊式庭園。

「板子一枚下は地獄」に生きた 男たちが運んだもの・残したもの

熟練の操船技術を持つ船乗りにとっても、嵐にあえば「板子一枚下は地獄」の恐怖にさらされます。商品を無事に運べば多額の利益を得られる北前船も沈んでしまえば一巻の終わり、全財産を失う船主もいました。危険と隣り合わせの航海は、安全を神仏の庇護に求め、寄港地の中心や小高い丘には神社や寺院があり、港と並行に寺院が建ち並ぶ町もあります。ここでは、航海の無事を祈願した船絵馬や船模型、中にはちょんまげを奉納した「鬚額」が奉納されています。また、境内には遠く離れた国名や問屋名が刻まれた玉垣、石灯籠、手水鉢などが寄進されています。

船を安定させる底荷・バラストとして運ばれた石の中には、神社や参道の石段に利用され、雨に濡れると神秘的な輝きを見せる笏谷石があります。社寺には船主や問屋らが寄進した、良質な木材を使用し優美な彫刻を持つ社殿や堂宇も見られ、船乗りが神輿を寄進したことを起源とした祭り、京都から伝わったとされる祭りも行われています。

北前船の寄港地・船主集落にある格調の高い神社仏閣の多くは、北前船の船主、船乗りらの篤い信仰に支えられていたことが分かります。



酒田山王祭祭礼用亀笠鉾



北前船が残した文物交流

雛めぐり

贅を尽くした雛人形は北前船で運ばれたとされ、今も雛人形を見て回る風習が残る。

北前船が帆を上げて現代に残した文物交流

北前船は生活必需品に加え、雛人形などの高級品、そして様々な文化を運んでいます。天候に左右される北前船の航海は、「風待ち」という文化により、出港までの間、料亭や茶屋などでの一時の出会いと別れと共に、そこで唄われる民謡など各地の芸能が船乗りたちによって伝わっていきました。代表的なのが、「おけさ」や「あいや節」などと呼ばれる哀調を帯びた節回しを持つ民謡です。この民謡は熊本で生まれた「ハイヤ節」が船乗りの間で歌い継がれ、北前船により日本海沿岸の港町に広まり、各地に根付いた芸能として親しまれています。

和食を代表する「昆布だし」食文化も生まれました。北海道から京都や大阪に運ばれた物に昆布があります。この地で昆布は「昆布だし」に磨かれ、日本のだし文化として現代の和食の基本になっています。他には凍結に強い赤瓦が運ばれたことにより、北国の防災力が向上し、綿の肥料となる鯀にしんや古着が行き交うことにより、衣服の質が格段に良くなりました。北前船は日本人の衣・食・住の生活環境向上に大きな役割を果たしたのです。

歴史の魅力を持つ町は数多くありますが、北前船の寄港地・船主集落は、立地や町のつくり、祭り・芸能や神社仏閣の雰囲気など、他の「歴史の息づく町」とはかなり違う趣を感じることができます。そこは、日本海の荒波を越え、人・物・文化を運んだ多くの男たちの夢が紡いだ歴史情緒に出会える異空間なのです。



傘福が展示される山王くらぶ